

## 教授人事について

4月1日付で新潟県庁より高橋英樹先生（口腔生命福祉学専攻福祉学分野担当）、7月1日付で大

阪大学歯学研究科より寺尾豊先生（口腔生命科学専攻微生物感染症学分野担当）が発令されました。

## 平成24年度口腔生命科学系列予算について

国の厳しい財政状況が続く中、平成24年度医歯学系口腔生命科学系列の予算が、5月9日開催の口腔生命科学系列教員会議で承認されました。本部から配分される総予算（学内共同利用施設運営費等を除く）は202,967,009円で昨年度に比べ41,963,586円（△17.13%）減でした。減額の大きな原因は概算要求事項の特別教育研究経費の大幅減によるものです。この中から目的用途が指定されている特別教育研究経費を除く158,057,000円を配分ルールに従って、予算を組み立てました。昨年度と大きく変更した点は大型改修に伴う系列

内留保を昨年度より500万円増額したことで、38,123,000円（△2,530,000円：△6.22%）を各教育研究分野の実績に応じて、教育・研究経費として配分しました（約18.8%）。光熱水量費が総予算の2割以上を占めており、業務に差し支えないよう省エネに引き続きご尽力をお願いしたいと思います。大学予算の好転が期待されませんので、分野および個人の研究経費は科学研究費等の外部資金ヘシフトせざるを得ないということを強く認識していただきたいと思います。



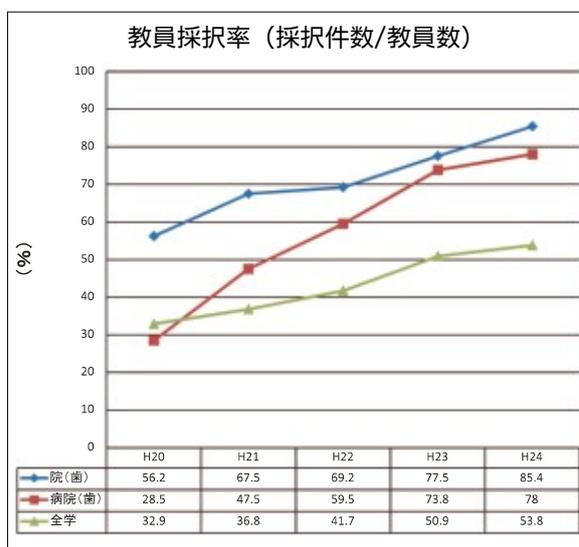
## 平成24年度科学研究費補助金内定状況について

本年度歯学系の科学研究費補助金の採択率を以下に示します（カッコ内は平成23年度実績）。

	新 規		新 規 + 継 続	
	採 択 率		採 択 率	
	採択件数／応募件数	採択件数／教員数	採択件数／応募件数	採択件数／教員数
院（歯）	49.1（46.9）%	30.3（33.7）%	73.1（67.0）%	85.4（77.5）%
病院（歯）	54.5（48.1）%	29.3（31.0）%	76.2（68.9）%	78.0（73.8）%
全 学	33.0（29.9）%	21.3（20.8）%	55.5（51.1）%	53.8（50.9）%

特任教員、技術職員に係るもの、若手スタートアップは除く

総括すると、平成24年度の内定状況は非常に好調でした。特に、教員の採択率（採択件数／教員数）では医歯学総合研究科担当教員85.4%、病院担当教員78.0%と過去最高を記録し、この採択率は全学ベースでそれぞれ1、2位の好成績でした。また、平成20年度の内定状況からの経年変化をみると（右グラフ）、教員採択率は右肩上がりとなっており、医歯学総合研究科担当教員で+29.2%（約1.5倍）、病院担当教員で+49.5%（約2.7倍）となり、法人化により病院業務が多忙になる中、病院担当教員の奮闘ぶりに敬意を表する次第です。しかし、昨年度も報告したとおり、歯学部課題として、分野間および個人間の格差が拡大しており、特に採択率0%の分野から100%超の分野、過去10年間未採択の教員から複数採択の教員までが混在することがあげられ、大型種目（基盤研究（S, A）、若手研究（A））への未申請や不採択により、採択率の伸びに比較して、金額の伸び悩みがみられます。基盤教育研究経費の削減、校舎大型改修のための留保が続く中で、外部資金の獲得のさらなる努力をお願いしたいと思います。



す。特に、不採択の方々は早め早めの対応策を立てられること、科学研究費シニアアドバイザー制度を活用されるなど、採択への努力をお願い致します。

全国の研究課題目等の採択情報は科学研究費補助金データベース <http://kaken.nii.ac.jp/> で閲覧できます。

## 平成24年度留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラムの採択

日本学生支援機構(JASSO)が募集していた留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラムに歯学部が応募していた「アジアから中米・北アフリカに広がる口腔保健医療人育成プログラム」（事業担当者：前田健康、魚島勝美、宮崎秀夫、小野和宏、興地隆史、大内章嗣、吉田恵太郎、神長真晴）が採択されました。1から6年生の中から選抜された14名の学部学生が、台湾・国立陽明大学、タイ・タマサート大学、コンケン大学、チェンマイ大学、インドネシア・インドネシア大学、ガジャマダ大学、メキシコ・コアウイラ自治大学に短期海外留学に出かけます（ショートビジット：SV）。また、これら大学に加え、スリランカ・ペラデニア大学、インド・ミ

ナクシ-アマル歯科大学、モロッコ・モハメドVスーシー大学から22名の学生が来学します（ショートステイ：SS）。昨年度の第1次募集、第2次募集をあわせると、2年間でSV事業38名、SS事業32名、計70名の学生がこのプログラムに参加したことになります（学部学生の1割以上）。このほかメキシコ・コアウイラ自治大学歯学部から2名の学生が6～7月に私費短期留学生として来学しました。

国の施策としてグローバル人材の養成が叫ばれている中、学生諸君は勇気を持って第一歩を踏みだし、海外に飛び出し、日本では経験できない異文化交流を体験し、今後の学生生活に役立てて欲しいものです。



## 歯科医療技術者育成システム整備事業による 臨床実習用学生技工室の整備

文部科学省が国立大学における教育研究の活性化を図るため、その基盤を支える大学の教育研究環境の整備を支援する「大学教育研究特別整備事業」に歯学部が申請していた「歯科医療技術者育成システム整備事業」が採択され（平成23年度歯学部ニュース第2号既報）、この夏休み期間中に、新たな技工機と共にデモンストレーションシステムと共に学生技工室に設置が完了しました。本事業では、耐用年数を大幅に超過し、老朽化が進ん

だ歯科技能設備の更新、技能教育の場の集中化により、歯学教育の根幹となる歯科技能教育の環境整備、高度化を図り、現代の教育ニーズに対応した実践的教育を行うことにより、社会に貢献できる良質な歯科医師養成を目指します。

あわせて、本整備事業により、医歯学総合病院新外来棟に設置される医歯学総合病院新外来棟共同技工室の歯科技工機がすべて更新されました。



## 歯学部大型改修計画について

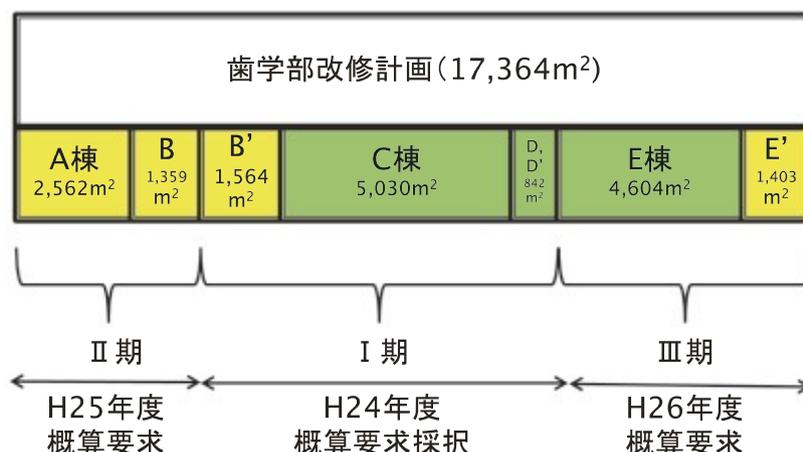
平成24年度政府予算により、歯学部校舎大型改修が認められたことはすでに先号で報告しました。本改修計画は3期計画（平成24～26年度）としており、第1期では歯学部校舎B'、C、D、D'棟の改修工事を平成25年1月から7月(予定)にかけて実施する予定になっています。本事業は講座・分野の改編や時代のニーズにより設置した口腔生命福祉学科・同専攻に即応することのできる柔軟な教育研究施設として、安全かつ快適な教育研究環境を創出するため、機能改善と環境対策を行うことを目的としています。国立大学法人の大型改修も限られた国家予算の中で実施されるため、競争的環境下での事業となり、国は「質的向上への戦略的整備(strategy)」、「地球環境に配慮した教育研究環境の実現(sustainability)」、「安全、安心な教育研究環境の確保(safety)」のいわゆる3Sの観点から、計画的かつ重点的に支援をすることとなっています。そのため、評価を受けるための個別事業評価シートの作成等、事務方のご尽力を賜りました。

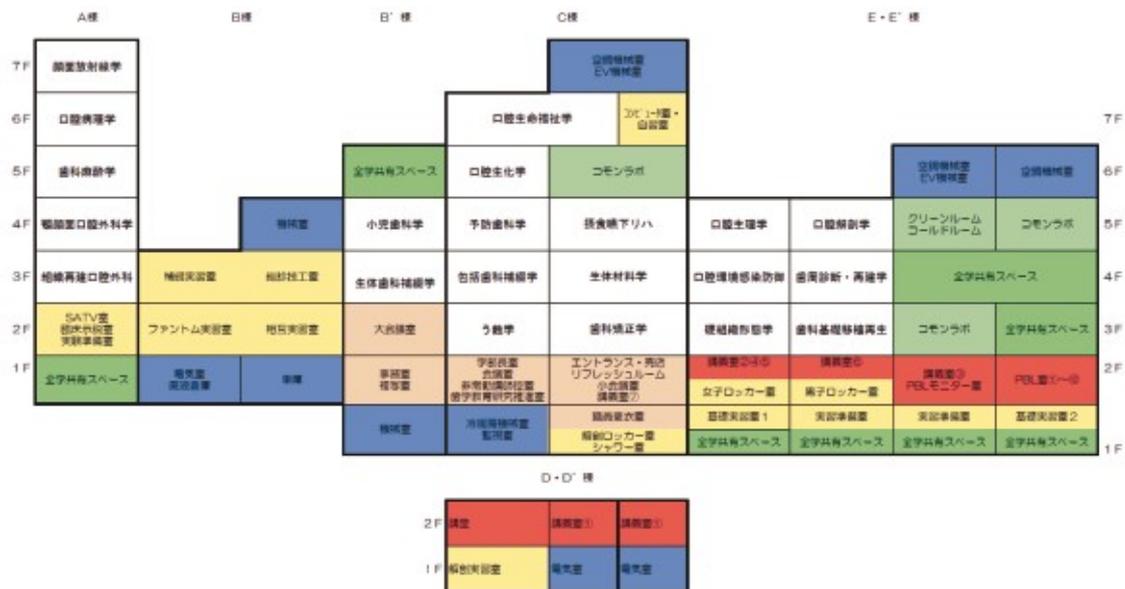
現在の歯学部校舎は昭和47(1972)年に竣工し、その後、歯学部学生定員増に伴う増築を進め、現在のような横の動線が極端に長い建物の配置になっています。建物自体も40年経過し、老朽化していることもありますが、既存施設と現代教育・研究ニーズとの乖離、既存施設と病院再開発施設

との地理的問題があり、また、改修後は共通スペースの確保が求められます。これらの対応には単なる改修だけでは対応できるはずもなく、既存設備・分野の大幅な再配置、スペースの再配分、新たなゾーニング等々、課題も山積でした。歯学部教員集会の開催による全教員でのディスカッション、教授会での議論、本部施設管理部との協議を経て、歯学部として大型改修計画をまとめました。

「個人の意見は捨て大局的な観点から意見を述べることで、各教育研究分野は現在地での整備はしない(させない?)、定年間近の教授のいる分野は研究室を細かく分断しない」という他大学、他学部ではあり得ないような教授会での基本合意の元で計画を立案しました(といっても優先順位を考慮せず既得権益からの一教授の発言等々もありましたが)。

次頁の分野、講義・実習室等の立体配置図で示すように、学生教育関係は1～2階に配置、基盤設備の問題、改修期間中の実習の実施から臨床系実習室のB棟への再配置、新外来棟への動線の関係から、A、B'、C棟には主として臨床系分野、特に病棟へのアクセス、E棟には主として基礎系分野の配置および分野間の医局・セミナー室の共用を考慮した配置となっています。特に、E棟では欧米式の研究室スタイルを導入するため、施設管理部にかなり無理なお願いをし、片廊下の研究





室の設計を考えました。この原稿を執筆している7月末現在、各分野と施設管理部との折衝が行われており、実施設計を経て、平成25年1月からの着工を目指しています。

移転先として、歯病跡地を考えており、C棟に存在する教育研究分野もすべて移転することとなり、また学生諸君には多大な迷惑をかけますが、講義室、実習室もすべて病院跡地に仮移転する予定となっています。

この大型改修は50年に1度の歯学部の大きな事業であり、移転・整備には多額の費用を要しますが、それにも増して多大な労力を必要とします。40年間に蓄積された分野のさまざまな備品・設備、教員個人の教育研究資料などの移転作業が待つ

おり、第1弾の引っ越しをこの12月中に行う必要があります。また、平成25年度概算要求でA、B棟の改修工事(第2期工事：H25.10～H26.3)を要求しており、もし、要求が認められれば、平成25年度中に3回の移転作業が待っています。当分の間、歯学部は移転と工事の中で教育・研究・診療を行うこととなります。支障のないような計画を立案しているつもりですが、歯学部構成員、学生諸君のご理解、ご協力をお願いする次第です。なお、下記のタイムスケジュールはあくまでも予定であり、国家予算との関係で第2期、第3期工事の実施時期が早まったり、遅れることもあります。

年	H24		H25					H26					H27												
	H24年度		H25年度					H26年度					H27年度												
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
事業	新外来棟移転	B・C・D棟移転	第1期工事					復帰移転	A・B棟移転	第2期工事					復帰移転	E'棟移転	第3期工事					復帰移転			
	第2期概算要求内示	第2期工事実施計画作成					第3期概算要求	第3期概算要求内示					第3期工事実施計画作成					新校舎全面竣工							